

周年放牧繁殖牛の繁殖成績に及ぼす要因

片平清美

目的

入来牧場では周年放牧繁殖牛により子牛の生産、育成及び肥育管理を行っている。牛肉自由化と景気低迷により子牛や肥育牛の価格は暴落している。今後の相場展開では牧場運営に大きな影響を与えることは必死の状況である。これに対応するには、繁殖成績をさらに向上させて子牛生産、育成および肥育効率を高めることが必要である。そこで本調査では、入来牧場の繁殖成績に及ぼす要因について検討し、技術向上のための資料を得ようとした。

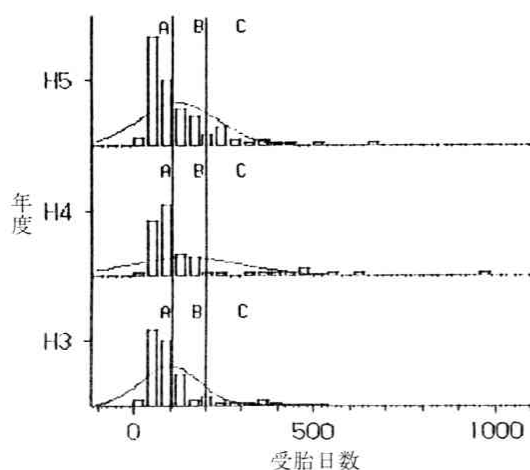
材料と方法

1991年～1993年までの繁殖経産牛262頭について、分娩後受胎日数の年度、季節、分娩月及び産歴間の違いを検討した。

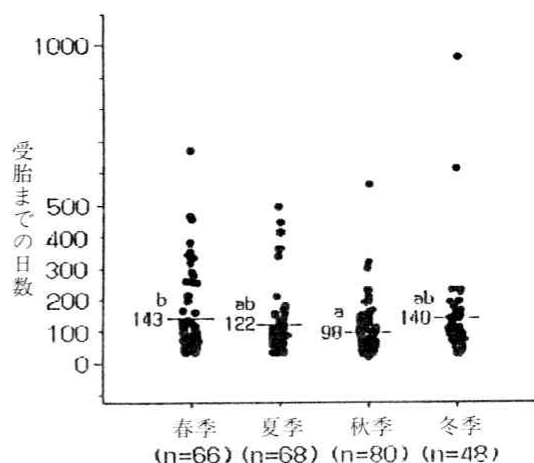
結果

年度別受胎日数は1991年に短く繁殖成績が良いが、1992年から1993年にかけて長くなる繁殖牛が見られ繁殖成績は低下している。それは初心者に授精を行わせたことと、頭数増加にともなう発情の見落としによる影響等であると思われる（第1図）。季節別受胎日数は秋季に最も短く繁殖成績が良い。冬季から春季にかけては特に長くなり繁殖成績が低下している（第2図、第3図）。分娩月別受胎日数は9月に最も短く、繁殖成績が良い。12月と1月は特に長くなり、繁殖成績が低下している（第4図）。産歴別受胎日数では有意差は見られなかった（第5図）。

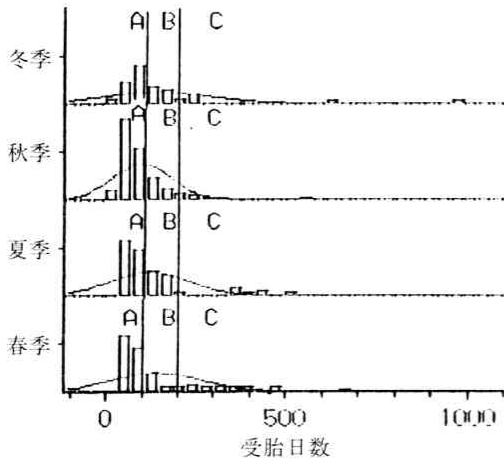
この結果から、初心者指導の強化と一部マキ牛（自然交配）を取り入れること、それとフレッシュチェックの精度を高めること等が必要である。



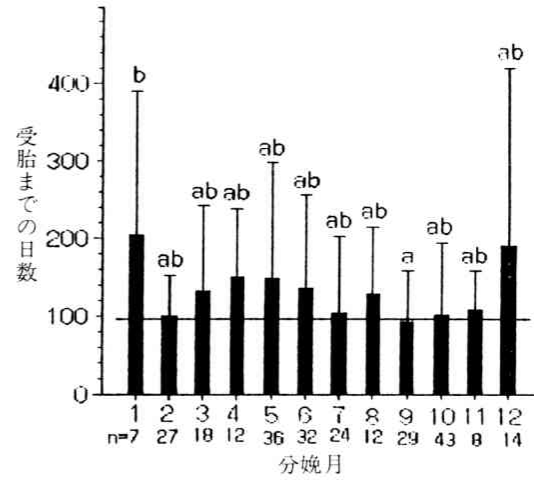
第1図 年度別の受胎日数の分布。
A, B, Cランク



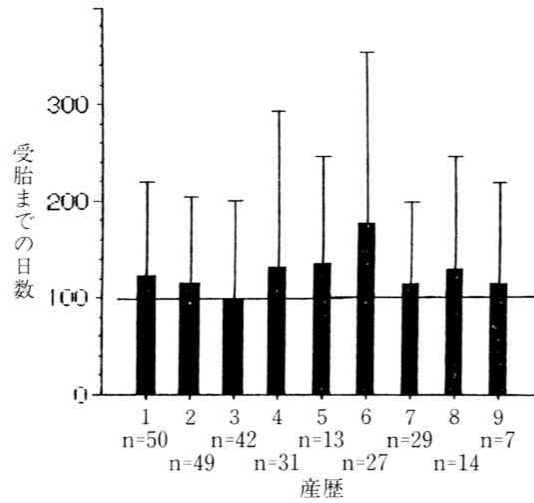
第2図 周年放牧繁殖牛の受胎日数の季節による違い。



第3図 季節別受胎日数の分布。
A, B, Cランク



第4図 周年放牧繁殖牛の分娩月別受胎日数の違い。



第5図 周年放牧繁殖牛の産歴別受胎日数の違い。